

水戸文化

通巻 第35号



神賑 筑水高校和太鼓奉演

ご挨拶

宮司 竹間 宗麿

今年の夏は、全国的に多くの風水害に見舞われ、特に北海道・東北地方各地の被害は甚大でありました。一日も早い被災地の復旧、また五穀をはじめ、諸農作物の豊かな実りを祈る毎日であります。

さて平成の大修理事業は、御社殿屋根のこけら葺きの作業が始まり、現下、境内には、竹釘を打つ槌音が響いております。また八月、九月には、奉賛会役員、奉賛者を対象とした御屋根工事現場見学会を開催し、古来よりの神社建築の修理現場を、間近にご覧いただきました。

また、八月二十五日には、斎館授与所新築工事地鎮祭を斎行いたしました。今後、御屋根工事と並行して、斎館授与所の新築、高良会館の改修を行って参ります。

本年も高良山の「おくんち」の季節を迎えました。高良大社の最も盛大な重儀の大祭を、この度は仮殿にて御奉仕申し上げます。清なることとなり、来年度は、修復を終えた、清新な御社殿にて、この秋の大祭を奉仕すべく、諸事業を進めて参ります。引き続き、皆様方の御力添えを宜しく御願い申し上げます。



高良山くんとくしん



獅子舞 高良山同志会

高良山くんち(おくんち)は高良大社の年間祭事の中で最も大きなお祭りです。十月九日の例大祭に始まり、十日の崇敬会大祭、十一日の観月祭まで、例年三日間の日程で行われます。

おくんちには、久留米喜多流の謡曲や高良山十景舞、表千家不白流による献茶式が祭典にて奉納され、さらに観月祭の催事も含めて多くの奉納行事があります。また、神賑行事として、剣道大会、さつき盆栽展、生け花展、各種武道の演武や獅子舞、風流、民謡、和太鼓、鼓舞、また小笠原流弓馬術同門会による弓道百々手式と久留米弓

道連盟による弓道大会などがおくんちを奉祝して行われます。

高良山くんちの「くんち」とは、「おくんち(御九日)」のことです。かつては旧暦の九月九日に行われていたお祭りでした。おくんちは、秋の収穫を祝う秋祭りと、陽数(奇数)の極である九が重なる吉日で、我が国で古くから祝日とされてきた重陽の節句と結びついたお祭りであり、高良の神様が御鎮座されたと伝わる特別な日です。高良山で秋の大祭といえ、古くは旧暦の十月に行われていた御神幸祭でしたが、規模が大きいため途絶えがちになり、江戸時代には時期的に近い旧暦の九月九日のおくんちが例祭となったといわれています。当時はこの日に藩主である有馬家の代参が行われ、農具市が立ち多くの参詣者で賑わったといわれています。昭和の中頃迄は、地元である御井町では、多くの家々で遠くの親戚を招き、何日も前からおくんちに向けて用意した栗のおこわ、カマス寿し、がめ煮といった御馳走を振る舞い、宴を開いてお祝いをしていました。今後このような伝統を大切にしていきたいものです。

くんち日程

十月九日(日)

神生祭 午前零時
例大祭 午前十時三十分
謡曲奉納 久留米喜多流奉賛会
舞奉納 高良山十景舞保存会



高良山十景舞

十月十日(月) 体育の日

崇敬会大祭 午前十時三十分
献茶式・野点拝服席

表千家不白流九州支部



野点拝服席

十月十一日(火)

第二十六回 観月祭 午後六時



観月祭 奉告祭

観月祭奉納行事

本殿

- 午後六時三十分～七時三十分
- 仕舞 久留米喜多流奉賛会
- 箏曲 生田流正派
- 琵琶 筑前琵琶保存会
- 吟詠 錦城流 加藤城勲師

境内特設舞台

- 午後七時四十分～九時
- 箏曲 生田流正派
- 和太鼓 御井鼓舞組
- 雅楽 高良大社雅楽同好会
- 柳川日吉太鼓 柳川日吉神社
- 久留米にわか 久留米にわか保存会
- 御茶席奉仕 日吉ぎんなん社中
- 表千家北村宗孝社中

神賑行事

九月十二日(日)

第十六回高良山剣道大会

境内特設剣道場

九月三十日(金)～十月二日(日)

第十七回さつき盆栽秋季展

さつき盆栽趣味の会

展望所特設展示場

十月九日(日)～十二日(火)

第十七回嵯峨御流生け花展

華道嵯峨御流諸岡社中

展望所特設展示場

十月九日(日)

境内特設舞台

獅子舞・風流

高良山同志会

御井町風流保存会

民謡奉納

日本民謡協会大川支部

空手奉納演武

新極真会佐賀筑後支部

久留米道場

十月十日(月)

午前九時より

境内特設弓道場

百々手式

小笠原流弓馬術同門会

第四十六回高良山弓道大会

久留米弓道連盟

午前十時より

境内特設舞台

古武道棒術

神影流心気道棒術

日向ひよつとこ踊り

ときめき会

和太鼓

筑水高校太鼓同好会



日向ひよつとこ踊り

祭事のご案内(十月中旬～十二月)

◆大学稲荷神社秋季大祭(末社)

十月十六日

高良山中腹に鎮座する大学稲荷神社の秋祭り。多くの参列のもと斎行されます。

◆山川招魂社秋季大祭

十月二十日

祖国の為に斃れた英霊をお祀りする山川招魂社の大祭が斎行されます。

◆明治祭

十一月三日

明治天皇の御聖徳を仰ぎ、皇室国家の繁栄を祈念致します。

◆撰末社例祭

十一月十三日

境内・山内に鎮座する撰末社の例祭を斎行致します。

◆七五三祭

十一月十五日

お子様方の健やかな成長を祈念致します。

◆もみじ狩り

十一月二十日

高良山中腹の紅葉谷で行われる秋の恒例行事です。

◆新嘗祭

十一月二十三日

宮中及び全国の神社にも行われる、新穀感謝の大祭を斎行致します。

◆鎮火祭

十二月一日

火の恵みに感謝するとともに、その災いが無いように祈るお祭りです。

◆大学稲荷神社冬籠祭(末社)

十二月八日

大学稲荷神社境内にて、参拝者が祈願を込めた神木を御焚き上げし、その成就を祈念致します。

◆煤払祭

十二月二十二日

祭典後、新しい年を迎えるにあたり、神職が箆帚で社殿の煤を払います。

◆天長祭

十二月二十三日

天皇陛下の誕生日を奉祝し、皇室国家の繁栄を祈念致します。

◆古神札焼納祭

十二月三十日

一年間お護りいただいた神札・お守りに感謝し、焼納する神事です。

◆年越大祓式・除夜祭

十二月三十一日

大祓式は、日々知らず識らずのうちに犯してしまった罪と、心身の穢れを人形に移して心身を洗い清める神事です。

年の最後の祭典である除夜祭では皆様が佳き年を迎えられるよう祈念致します。



第四十五回 高良山書道展

講評 審査委員長 中垣 正敏先生

第四十五回高良山書道展、書道上達祈願祭・表彰式が七月十八日に行われました。出品総数は、六九七点、筑後一円はもとより、山形・栃木・横浜・名古屋など、遠方の各地からも応募いただきました。審査委員長中垣先生以下、五名の審査委員により、各賞が選出されました。



高良大社宮司賞
中学一年
永江 咲好

二文字が実に調和よく、起筆終筆共に心をこめて書かれ、どっしりとした心の充実感あふれる筆運びで見事な作品である。



高良大社崇敬会会長賞
小学二年
江頭 杏和

三文字がバランス良く、ひらがなの丸みのある柔らかな線が緩急をもって、実に良く書かれた作品である。



福岡県知事賞
中学三年
村上 彩乃

漢字の四文字をうまくまとめている。筆の起筆・送筆がしっかりしていて、線質に伸びがあり良い作品である。



福岡県議会議長賞
杉本 龍峰

羊毛の特質を生かした、ゆったりとしたタッチで作品をしあげている。内容を盛り上げた素晴らしい作品である。



久留米市長賞
小学四年
田中 美帆

漢字の点画がしっかりしており力強く書かれており、ひらがなのとの調和が見事な作品。



久留米市長賞
小学五年
堤 陽祐

漢字二字、かな二字が見事に調和よく書かれ、漢字は力強い筆さばき、かなはかならしい伸びのある筆づかいで素晴らしい作品である。



歌の内容をよく表した作風。かなや漢字を上手く調和させて、柔らかなタッチでしかも線にのびのあるよい作風である。

久留米市議会議長賞
野口 良香



久留米市議会議長賞
小学六年
鶴元 葵

しっかりとした力強い筆づかい。漢字三文字、かなまじりの難しい四文字を上手くまとめた作品。起筆・送筆・終筆がしっかりしているよい作品。



西日本新聞社賞
高校二年
渋田 彩水

起筆・送筆の力強い線質を生かした、きびきびした筆の運びをもって、弥勒の仏の力を遺憾なく表現している、力強い素晴らしい作品である。



上海堂賞
小学一年
横田 郁美

どっしりとした、しっかりした力のこもった筆づかいが素晴らしい。穂先をしっかりと押

さえ、しっかり筆を運び、最後まで筆力をこめて書き上げているのがよい。



硯山賞
小学三年
廣津 大雅

かなと漢字をバランスよくまとめている。筆の入り、送筆ゆったりと運ぶかなののびやかさを出した、よい作品である。



審査委員長賞
中学三年
井上 向日葵

筆の運びが流麗。行書の特徴を生かした筆運び、五文字の調和がとれたよい作品である。

高良大社賞

- | | |
|------------|-----------|
| 小一 岡 芽衣菜 | 小二 榎永 莉亜 |
| 小三 浅川 愛香 | 小四 西江 梓 |
| 小五 志牟田 奏 | 小六 小杉 えり |
| 中一 金子 大喜 | 中二 北原 積木 |
| 中三 西川 桜良 | 高三 山下 愛允子 |
| 高三 大内田 比茄子 | |
- ### ゆめタウン賞
- | | |
|------------|------------|
| 小一 おおつきゆうと | 小二 おおつきゆりな |
| 小三 岩丸 稔 | 小四 平島 千聖 |
| 小五 指原 美侑 | 小六 井上 朱理 |
| 中一 中村 果穂 | 中二 伊藤 明子 |
| 中三 金山 彩花 | 高二 山田 桃花 |
| 一般 富樫 正義 | |

兼務社紹介

神代くましよ

天満神社

校区の兼務社八社のうち六社が天満神社です。

天神様には道真公の信仰と恵みを授ける天の神様さまの信仰が重なり、学問の神様としてだけでなく、豊稔の神様としても信仰されるようになりました。

神代の天満神社は道真公が水田(筑後市)より北野(久留米市)へ向かう折にこの地で筑後川にて沐浴をなされた事により、神代の村民が社殿を創建しお祀りしたのが最初と伝えます。更に沐浴し身浴びされたことから「身浴びの天満宮」とも称されました。

明治六年三月十四日に村社に列せられました。

昭和四年四月に社殿改築、同年六月二十六日筑後川の大洪水堤防決壊により社殿が流出しましたが、翌昭和五年九月に社殿竣工し御遷座等その都度、地元神代の氏子の方々の力によって神社は存続してまいりました。祭礼は七月の夏祈禱にて五穀豊穡、疫病除けを祈り、十二月には新穀の稲藁で注連縄をない上げ、門松と共に社殿を飾り新年を迎える準備を行い、実りの秋に感謝申し上げます。

直会も甘酒や白飯等古風を残し和気あいあいとお祭りが行われるのです。



御祭神

菅原道真公

筑紫次(二郎)、千歳川の名でも知られる筑後川に架かる神代橋の辺に鎮座するのが天満神社です。

ご祭神は天神様、菅原道真公をお祀りしています。

福岡県内には道真公が都より大宰府へ政略により左遷され、その地にて薨去なされたことにより、天神様につながる伝説も多く伝えられております。

また天満宮、天満神社等多くの天神様をお祀りするお社も多く、山川

高良山の信仰(十二)

弁天さま

弁天さまは元々、インドヒンドゥー教の女神「 Sarasvati 」で水と豊穡の神また芸術・学問の神として信仰され、やがて仏教に取り込まれ護国三部経の一つ「金光明最勝王経」に「弁才天」の名で出てこられ仏教を守る「天部」の神として日本に伝わりました。

です。弁天さまは神道では宗像三女神の石柱、市杵嶋姫命という美しい女神と同じ神様と考えられ、明治以降の神仏分離により、かつての弁天堂は厳島神社となり仏堂から神社に変遷されたところも少なくなく、御手洗池の弁天さまも同様に神道様式となりました。更に安芸の宮島や琵琶湖の竹生島に倣い弁天さまは池や沼の辺や、その中の島にお祀りされるのも多く拝されます。

お名前の「弁才天」の「才」を「財」と書くこともあり学問諸芸の神から財福の神として、七福神の一方としてご存じの方も多いと思います。

お祭りは十一月十三日です。

お姿は琵琶をお持ちの天女の姿が知られています。インドでのお姿は孔雀又は白鳥に乗り、手は四本でヴィーナという弦楽器をお持ちで、それが日本では琵琶になりました。また琵琶ではなく宝剣と宝珠をお持ちのお姿もあり、更に手が八本のお姿では弓矢、剣等武器をお持ちで戦闘神としての勇ましい面もお持ちです。

二か所目は参道二の鳥居より入った竹藪内にある石塔の大辨財天社です。裏面には白蛇塚と刻されています。

加えて頭上には「宇賀神」という顔が翁で胴体が蛇体の神様を乗せた宇賀弁財天も現れました。このようにインドの女神が日本に伝わり、そのお姿も変容し福德の神様としてのイメージがより強くなりました。

弁天さまのお使いは蛇とされ、分けても白蛇されてきました。法印恵光建立とあることから、江戸時代の山内に住する僧侶によって白蛇の亡骸を埋め弁天さまとして建立お祀りされたのでしょう。分かりづらい場所ですが、神やお花お酒が供えられ今も変わらず信仰されています。

さて高良山には二か所弁天さまがお祀りされています。先ず山麓の御手洗池の中の島に鎮座する厳島神社

このように弁天さまは福をもたらす女神として身近に信仰されているのです。

権禰宜 松本 長人



工事状況報告

◎平成の大修理工事状況報告

平成二十七年十月二十七日、本殿より仮殿に大神様をお移しし、間もなく一年が経とうとしています。その間、御参拝の皆様には、日々のお参りを始め何かとご迷惑をおかけいたしました。お詫言を申し上げます。

さて、前回の報告では、簡単に昨年十一月から今年の六月までの状況を報告いたしました。今回は、七月～九月までの状況を報告いたします。七月に入り山陰地方で作成されていたこけら板が揃い職人により順調にお屋根替え工事（こけら板の打ち付け）が進められています。

八月七日には、奉賛会役員またご奉賛を戴いた方々にご案内をし、



こけら葺き作業

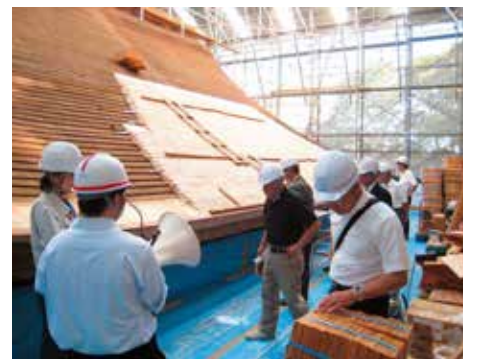
工事見学会を開催いたしました。約七十名の方々に見学いただき、こけら板の竹くぎ打ちを体験したり、設計監理者また施工業者による説明が行われ、参加した方々は何度も頭を傾かせ説明に聞き入っていました。



見学会 こけら竹くぎ打ち体験

また、それと並行して齋館授与所（お守り等を頒布している場所）の解体工事が半月ほどかけて行われ、八月二十五日には、地鎮祭を斎行、工事の安全を皆で祈りました。

九月三・四日には、第二回目の工事見学会が行われる予定でありましたが、台風接近により九月十七・十八日に延期となり約一〇名の方々の参加にて実施いたしました。



見学会 現場説明

今後の工事の予定と致しましては、引き続き十月から十二月にかけてこけら板の打ち込み作業が行われ、齋館・授与所に関しては基礎工事等が行われます。

また、ホームページでも工事状況の報告を致しておりますのでご覧いただければと存じます。

是非、秋の高良大社にお参りいただき工事の進捗状況をもご確認いただければ幸いです。皆様の御参拝をお待ち申し上げます。



秋の葉色づく旧宮司邸

◎齋館・授与所地鎮祭斎行

高良大社平成の大修理お屋根替え工事が進む中、平成二十八年八月二十五日午前九時半より内海禰宜以下の奉仕により地鎮祭が斎行されました。

当日は、好天に恵まれ大変暑い日でしたが、高良大社代表役員 竹間宗麿宮司、高良大社飯笹実・赤司昌生・永淵俊毅・中島田正徳各責任役員、高良大社平成の大修理奉賛会 井手英会長、高良大社 菊池康男・豊福政美・山下照之・堤謹一・加藤田九洲男・古賀忠男各総代、設計監理永田建築事務所、施工金子建設以下約三十名が参列。無事安全に竣功することを祈りました。



地鎮祭後 記念撮影

高良大社 平成の大修理事業奉賛者芳名簿

(平成二十八年五月二十一日より平成二十八年九月二十日まで 敬称略・順不同)

三百万円以上

- 久留米市農業協同組合

百万円以上

- (株)伊福穀粉工場
- (株)八ちゃん堂
- 下津浦 康裕
- 大洋工務店
- 赤星神社
- 喜多村石油(株)
- ネットトヨタ西日本(株)
- 黒岩 延峰
- 表千家不白流九州支部支部員一同
- (株)ふくや

五十万円以上

- 平田 幸治
- 中央防災システム(株)
- 井手 和英
- 九州旅客鉄道(株)
- 半田建設(株)

十万円以上

- 江戸千家久留米不白会
- (株)民俗工芸
- 最所産業(株)
- 緒方 義範
- 熊谷 貴子
- 福岡ライフエナジー(株)

- 光山 美出征

- (医) 社団豊泉会

- 小川 正一

- 黒田 シヅ子

- 池田 晴弘

- (株)西和不動産

- 中島 一磨

- 渡辺 秀幸

- 大石化成(株)

- 松尾 眞美

- (医) 寿栄会

- 野田 七之

- 秋山 悦子

- 藤田 順子

- 平田 迪久・平田 晴美・

- 平田 宗・相部 絹佳

- 平田 大三郎

- 岡部 謙児

- 山田 陽子

- 河北 宣正

- (株)衛専

- 森光 佐一郎

- 國分 保夫

- サイクランドシライシ

- 牛嶋 美香

- 石田 光

- (株)エサキ自動車

- 中島 智徳

- (株)萬代

- 馬場 洋一

- 鹿子嶋医院

- 焼鳥天勝

- (有)木屋本店

- 木下 良一

- (医) 天寿堂医院

- 諸富 善治

- 水田天満宮

- つつみ内科

- 大川設計事務所

- 佐々木 四十臣

- 里村 康

五万円以上

- 澁田 辰男

- 樋口 昌二郎

- 橋本 英次

- 豊福 芳郎

- 矢野 隆興

- 近藤 孔史

- セブンイレブン

- 久留米東合川5丁目店

- 御井旗崎店

- 九相(株)

- グリーン産商(株)

- ヘアーサロンすずき

- (株)小郡カントリー倶楽部

- 津田 秧

- 西村 宗留

- 寺寄 文則

- 了戒 謙二

- 吉田 守秀

- 辻 好文

- 家永 光啓

- 杷野 光貴・杷野 昭子

- (医) 聖峰会田主丸中央病院

- 高橋 一臣

- (有)トヨタック

- 尾島 史郎

- 富永 宗涯

- 倉重 英洋

- 高良内八幡神社

- TG・タイ

一万円以上

- 中村 剛

- 永富 幸枝

- 廣木 幸一

- (株)セイブ

- りくだい(株)

- いつき陶苑

- 中根 俊次

- (株)山田屋

- 鹿江 健介・鹿江 正明・鹿江 尚央

- 大谷 春男

- 時井 直

- (株)サンテングヤ

- みの工房ピビ
- 矢ヶ部 作
- 手打そば瑠庵
- 大塚 芳史
- (株)KOWA
- 伊勢一刀彫
- 石橋 文雄
- 九州勸業(株)
- 坂井 公明
- 篠原 英二
- 榎橋 裕章
- 時里 真一
- 城戸 保文
- 原口 知之
- 榎藤 英男
- 淵上 清文
- 山崎昭充
- (株)ダイリン
- トラストリアルエステート(株)
- 原 博輝
- (株)えがみ塗装
- 豊福 二男
- 内田 作
- (株)工房えむま
- (有)筑後家徳兵衛
- (株)紅乙女酒造
- 榎 健次
- 田中 正憲
- 大野 岩義
- 筑後川砂利砂協業組合
- 豊田 真弘
- 白江 和子
- 松本 正義
- 野田 久司

- 井上 隆夫
- 麻生 康隆
- 本村 京子
- 榎橋梅月堂
- 平田 洋一
- 田中 信義
- 福岡キワニスクラブ
- 豊福 照子
- 柳 誉
- 緒方 利行
- 社頭募金箱
- 城天満神社
- 高田 充洋
- 萩野 光信
- 萩野 和助
- 高木 喜一郎
- 沖本 禮三郎
- 森山 好男
- 中野 清喜
- 柴田 廣太郎
- 矢野 茂人
- 加藤田 裕一
- 辻 文孝
- 馬場 涼子
- 西村 元子
- 古賀 直子
- 原口 高之
- 沖 大輔
- 高田 恵子
- 高田 純子
- 古賀 保彦
- 藤田戦略研究会
- 堤 紘一
- 中川 利弘

- 鹿子嶋 康夫
- 和住 浩子
- 田中 クミ子
- (株)佐藤商会
- 樋口法律事務所
- 植田管工設備(株)
- 藤野自動車整備工場
- (医)日高整形外科病院
- 井手 民恵
- (株)ケンテック
- 大 康博
- 永田 正志郎
- 安部 達也
- 重枝 葉子
- 深井 颯一郎・深井 美沙希
- 緒方 英徳
- 田坂 仁志
- 瀬戸 広志
- 英徳工業
- 橋爪 秀敏
- 城崎 仁恵
- 岡 定美
- 田中 隆
- 藤崎 正敏
- 村田 静男
- (株)八女人形会館
- (株)西日本新聞会館
- 黒岩 純弘
- 近藤 開作
- 豊福 廣見
- 丸福(株)
- 伊藤 妙子
- 吉本 安宏
- 豊福 芳朗

- 仁井 淑恵
- 仁井 健太郎
- 仁井 康弘
- 堀川バス(株)
- 伊藤 一夫
- 豊福 新児
- 高木 為雄
- 豊福 輝隆
- 淵上 久寿
- 八谷 みさほ
- 西村 猛
- 豊福 弘信
- 作田 英彦
- 豊福 松男
- 豊福 博重
- 池田 保彦
- 池田 新治
- 水戸部 恵
- 池田 良光
- 下川 忠藏
- 池田 忠吉
- 中村 角栄
- (有)林自動車
- (有)アイエム
- 玉寿司
- 竹内 巳加
- 塚 康太郎
- 中西 和也
- 野瀬 正行
- 磯本 浩晴
- 田口 国博
- 北川 勝美
- 高山 一夫
- 永江 潤

- 首藤 文夫
- 東 宏昭
- 真子 秀夫
- 立石 久夫
- 豊福 政一
- (有)柳川観光バス
- 中野 信幸
- 出口 克子
- 野村 洋一
- 針貝 博樹
- ジュンモーター販売
- 森 次男
- 宮尾 利幸
- 山口 淳
- 秋山 好文
- 長沢齒科
- ベークショップ エスポワール
- 野田板金工業所
- (有)モロトミ園芸
- 小野 光彦
- 早田 光
- 松岡 聖子
- 緒方 セツ子
- 早田 文幸
- 早田 博昌
- 大石 廣義
- 野村 勝浩
- 高田 学
- 川原 伸治
- (株)よしはら
- 中村 くるみ
- 小柳 信治
- 富安 彰洋
- 江頭 健次郎

- 牛島電設
- 岡 清文
- 古賀 慎治
- 菊池 廣次
- 古賀 建二
- 三原 泰子
- 森田 努
- 緒方 知
- 白木 良彦
- 一万円未満
- 淡河 昌之・淡河 恵美子
- 豊福 保
- 中村 久男
- 丸山 千代子
- 原田 恭子
- 末次 哲隆
- 東野 敏夫
- 中村 久義
- 菊竹 英子
- 中村 久美子
- 三宅 ミツ子
- 野間口 虎男
- 田中 晶一
- 吉金菓子舗
- 梶原 壽利
- 永田 正和
- 太田 理佳
- 池田 茂
- 柳 忠弘
- 古賀 喜美男
- 財津 秀記
- 矢立 敦
- 豊福 久男

- 豊福 保幸
- 豊福 寿子
- 豊福 保隆
- 豊福 貞雄
- 豊福 兼雄
- 中牟田 保彦
- 牛島 靖彦
- 今津 逸雄
- 近藤 晃
- 池田 直樹
- 池田 通保
- 池田 登
- 石井 拓
- 古賀 司
- 近藤 政美
- 池田 幸雄
- 池田 弘子
- 池田 浩一
- 豊福 文子
- 甲 久祐
- 半田 美和
- 豊福 智恵子
- 古賀 三郎
- 長門石 一好
- 本村 政彦
- 柳 義正
- 大津 憲二
- 中村 喜久雄
- 権藤 久典
- 池田 義政
- 権藤 虎雄
- 池田 功
- 井上 繁子
- 池田 泰典

- 野口 剛
- (有)アイラインサービス
- 両筑産業(株)
- 近藤 宏美
- 荒木 アサヲ
- 執行 慶二
- 池田 三喜
- 池田 昭典
- 森 愛子
- 渡辺允公事務所
- (有)あらまきインテリア
- メカニコジロ
- 原口 先美
- 原口 勝美
- 池田 誠
- 川原 三男
- 川原 信次
- 野村 浩次
- 野村 功
- 野瀬 健勝
- 今村 輝年
- 小田原 米子
- 近藤 為義
- 岡 フサコ
- 緒方 孝行
- 永田 茂生
- 豊福 民雄
- 鶴 俊昭
- 田中 雅国
- 萩野 貴仁
- 林田 命祚
- 豊福 護
- 田中 政勝
- 田籠 正一

- 田籠 利雄
- 姫野 友和
- 横山 義照
- 天野 ミチ子
- 樋口 富彦
- 増田 八千江
- 天野 弘三
- 中垣 俊子
- 樋口 嵐
- 黒田 健夫
- 加藤田 トシ子
- 山口 るみ
- 山口 隆昭
- 長谷部 ヒロ子
- 古賀 茂子
- 長谷川 待子
- 津田 篤雄
- 谷村 修三
- 森山 忠勇
- 秋吉 弘久
- 執行 宏
- 山本 繁
- 山口 好美
- 大和 右二・大和 鏡子・大和 秀輔
- 馬場 隆一
- 末次 英子
- 早瀬 一昭
- 小川 和彦
- 野口 悦郎
- 渡邊 将司
- 田中 睦人
- 池田 徳雄
- 志賀 光男

- 久保頭 すず子
- 樋口 靖彦
- 石井 美千代
- 古賀 毅
- 山添 潔
- 田中 義幸
- 大塚 フミ子
- 宮崎 清次
- 田村 健兒
- 田篁 賢三
- 栗秋 元實
- 清原 直太
- 原口 弘子
- 鶴 明
- 鶴 ミチカ
- 長尾 まり枝
- 鶴 一徳
- 鶴 利光
- 鶴 辰巳
- 鶴 計明
- 鶴 國男
- 原口 日出夫
- 原口 初次
- 志波 喜美子
- 原口 勝正
- 志波 英恵
- 早田 金子
- 志波 千代佳
- 志波 萬里子
- 松本 聖子
- 原口 良一
- 志波 政臣
- 原口 清一
- 原口 静馬

- 川原 均
- 原口 光男
- 川原 ヒロ子
- 清原 勝美
- 志波 一雄
- 志波 守
- 広田 正生
- 下田 学
- 小楠 啓一
- 平田 初女
- 平田 政嗣
- 辻 秀子
- 辻 貞弘
- 大石 歳久
- 廣田 弘禪
- 田中 由美子
- 川原 一二三
- 橋野 昭爾
- 大石 和孝
- 草場 達也
- 早田 正博
- 原口 金利
- 権藤 功
- 高田 初夫
- 鶴 伊三男
- 鶴 千代孝
- 高田 静夫
- 高田 洋
- 末安 廣行
- 高田 憲二
- 上提 富男
- 高田 信孝
- 樋口 一弥
- 末安 明

- 緒方 哲雄
- 宮崎 光詞
- 荒木 修司
- 高田 博義
- 原口 三幸
- 早田 秀樹
- 早田 重幸
- 高田 高良
- 丸山 靖博
- 早田 初次
- 大石 美智男
- 平田 澄博
- 江口 篤
- 高田 英樹
- 高田 道生
- 大石 康雅
- 野村 輝大
- 坂田 浩一
- 大石 光来
- 廣田 一義
- 大石 久
- 平 重美
- 大石 龍之
- 大石 茂
- 緒方 信正
- 市川 正彦
- 豊福 茂
- 田中 三省
- 松本 善郎
- 大鶴 楠男
- 大鶴 君子
- 大鶴 裕史郎
- 瀬戸 富士彦
- 大石 スイ子

- 豊福 信幸
- 近藤 隆広
- 菊池 淳美
- 田上 伸二
- 森光 辰彦
- 廣田 淳
- 田中 義一
- 田中 利治
- 大石 智香子
- 平田 幸子
- 平田 博道
- 鶴 雅之
- 緒方 義則
- 緒方 朋子
- 緒方 健司
- 廣田 利盛
- 本山 武
- 山口 茂
- 赤司 一也
- 緒方 博志
- 緒方 美知子
- 稲吉 重雄
- 大石 光裕
- 吉谷 修
- 久家 恵美子
- (株)中山建設
- 山田 豊
- 青木 美根子
- 山田 光広
- 富松 弥四郎
- 藤本 宗八
- 葭原 スミ子
- 山口 眉美
- 棚町 茂孝

- 栗原 伸年
- 井原 利昭
- 井上 三春
- 田中 大介
- 縄田 行光
- 岩坪 雅幸
- 高畑 福督
- 野瀬 正毅
- 中村 正美
- 豊福 純史
- 豊福 政昭
- 幸田 裕明
- 小倉 五生
- 金井 秀記
- 鹿田 佳裕
- 松尾 和彦
- けんこう不動産
- 野田 知秀
- 岡 芳子
- 川原 正嗣
- 安徳 和枝
- 野瀬 幸
- 栗田 信義
- 瓦林 正幸
- 吉田 スミカ
- 山口 博樹
- 坂本 律子
- 橋本 耕一
- 橋本 訓司
- 山口 美穂子
- 豊福 吉男
- 政次 茂子
- 香月 正明
- 田中 耕平

- 高山 警子
- 堤 健
- 隅田 慎二
- 蒲原 皓一
- 森田 アキヨ
- 洪田 辰次
- 正蔵寺 正幸
- 熊谷 収
- 野口 紀元
- 石井 広子
- 田野 つるえ
- 池尻 洋彦
- 平峯 富雄
- 馬田 純子
- 豊福 茂則
- 國武 健次
- 深川 俊明
- 川上 昭人
- 岩橋 敏勝
- 田中 英明
- 福田 和憲
- 田中 三郎
- 十時 誠二
- 井上 晶一
- 長野 幸一
- 田中 剛寿
- 松谷 博満
- 坪田 政弘
- 志波 三春
- 鍋島 正彦
- 猪口 啓司
- 山本 英助
- 豊福 孝利
- 山本 義晴

- 豊福 千代美
- 大石 恵
- 武内 末高
- 前川 潔
- 近藤 サナエ
- 美根 浩一
- 豊福 範夫

本事業にあたりご篤志・御奉賛を賜り、厚く御礼申し上げます。

現在、御社殿は職人の手により新しい桝板への葺き替え工事が行われています。また斎館・授与所新築工事も始まり、ご参拝の皆様には大変ご迷惑をお掛け致しております。

平成二十九年の事業完了に向けて、計画工事を遺漏なきよう努めて進めて参ります。更めて皆様の御奉賛・御協力を重ねて御願ひ申し上げます。

前回「たまたれ第34号」にて御奉賛者芳名をご報告申し上げました。事務局の不手際により誤りがありましたので、お詫び申し上げます。訂正をさせていただきます。

・一千万円以上

(正) 北原ウエルテック(株)

(誤) 北原ウエルテック(株)

・十万円以上

(正) 石橋 敏男・秀子

(誤) 石橋 利男・秀子

・一万円未満

(正) 加藤田 正治

(誤) 加藤田 正 (敬称略)

何とぞ御海容賜りますよう宜敷御願ひ申し上げます。深くお詫びを申し上げます。



高良山通信

高良大社兼務神社

総代会開催

去る八月二十五日(木)高良内コミュニティセンターに於いて平成二十八年度の高良大社兼務神社総代会が開催されました。

当日は竹間宗磨代表役員宮司が議長となり、議事が行われました。審議事項全て承認を受け、その他の報告説明も了承され、無事閉会と相成りました。次期輪番は御井校区にお願い致しました。

祭事報告

川渡祭(へこき祭り)

六月一日・二日

早朝、朝妻の清水で禊を行った老若男女が山頂の高良大社を指し石段を勇壮に駆け上がりました。宮司以下神職と共に多くの参列者が茅の輪をくぐり、無病息災を祈りました。赤い肌物を身に着け、還暦、厄除け等の御祈願をお受けになる方々で社頭賑わいました。



大茅の輪の前で執り行われる神事

夏越大祓式(六月三十日)

半年間の日々の生活の中で知らず識らずのうちに犯してしまった罪穢れを人形(ひとがた)に移し、抜い清める神事を斎行いたしました。また、暑い夏を無病息災に過ごせるよう祈りを込めました。

献灯祭(八月一日)

御社殿正面にある一三一段の石段の両側の灯籠をともし点灯式。献灯奉納者の安全や事業繁栄・地域の発展を祈念します。八月末迄夜間点灯致しました。

奉納剣道大会(九月十一日)

久留米市をはじめ、各地の中小高校の剣士が集い、境内の特設会場にて互いの技を競い合いました。



熱戦を繰り広げる剣士達
(おくんち神賑行事)

講習会受講報告

この夏、職員は教養研鑽に努め、神前奉仕に固く勤むべく各種講習会を受講いたしました。

● 雅楽講習会

七月二十五日〜二十七日

於 警固神社社会館

● 神葬研修会

八月三十日

於 福岡県神社庁

● 祭祀舞講習会

八月十七日〜十九日

於 福岡県神社庁

鎮守の杜

間もなく「おくんち」が参ります。くんちは秋祭りの別称でもあり、長崎、唐津が有名ですが、我が高良山、高良大社のおくんちも三日前に亘る年中最大の重儀であります。神社での祭祀のみならず、近辺の各家庭でも、かます寿司、栗おこわ(赤飯)、がめ煮、甘酒等をつくり家族一同或いは来訪者にもてなしてお祝いしたいと思います。

この甘酒は他県の秋祭でもみられ、筆者の故郷では秋祭りのことを甘酒まつりと称しております。収穫した新穀で醸した甘酒を神様に供し、氏子一同にてお下がりを頂戴します。甘酒ではなく「濁酒」を神社で醸すお社もあり、左党の参拝者に喜ばれ、毎年飲み過ぎで足腰が立たなくなる方もでる程の人気だそうです。さて甘酒にはアルコール成分が入って無いため、子供から、婦人、お酒が苦手な方まで多くの参拝者に喜ばれ、まさに「神人共食」です。子供の頃は甘酒も今と違い年中売ってはなく、年に一度甘酒が飲めるのが楽しみでありました。友達同士で「三杯飲んだ」「俺は四杯」と競って頂戴したのも思い出です。赤飯やお餅もお祭りや特別なとき等、年に数回しか作りませんし(普段は作ることもできない)食べられませんでした。おくんちを目の前に食生活も変わったものだと甘酒を思いながら昔を懐かしく思った次第です。

「たまたれ」 通巻三十五号

平成二十八年十月一日発行

発行者/高良大社社務所

福岡県久留米市御井町一番地

電話〇九四二一四三二四八九三

FAX〇九四二一四三二四九三六